

持続可能な彫刻

アートが拓くユニバーサルな可能性

彫刻家たちが創作と生活の場を共有しながら作品を公開制作する「彫刻シンポジウム」は、冷戦精進下のヨーロッパの政治状況を背景に、オーストリアの石切り場で誕生した芸術活動です。反権威主義、反アカデミズム、反商業主義などを掲げ、新時代の彫刻のあり方を模索したこの「石切り場における芸術」は芸術家のエコイスマをも克服しうるユートピア的な共同体を見出しました。1964年の東京オリンピックの直前に真鶴で開催された「世界近代彫刻シンポジウム」も「彫刻シンポジウム」の理念を継承するものでした。

2020年、オリンピック・パラリンピックを迎えた私たちは今、アートとどのように向き合えばよいか、多様な芸術のあり方をどのように引き受けるべきでしょうか。

彫刻は、宗教的な理由で破壊されたり思想的な理由で引き倒されたりすることがあります。砲弾をつくるために彫刻が溶かされた過去もあります。ゆるやかな破壊もあります。それは、私たちの彫刻に対する「無関心」が引き起こす破壊です。

彫刻は私たちの何十倍も長生きしますが、その寿命を決めるのは社会であり、私たち人間です。「持続可能な彫刻」は、彫刻と社会、彫刻と私たちの「生」のあり方を問い直す試みです。

今回のシンポジウムでは、ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）の理念のなかに、「持続可能な彫刻」のあり方のヒントを探ります。アートは、民主主義を育み、豊かな社会を実現するユニバーサルな可能性を秘めています。

世界近代彫刻シンポジウム会場 『みづゑ』1963年10月号より

日時:2020年1月12日(日) 参加無料

場所:東海大学湘南校舎 松前記念館講堂

- 12:30- 受付
- 13:10- ご挨拶 朝倉徹(東海大学課程資格教育センター所長)
- 13:20- 趣旨説明
- 13:30- 基調講演 水沢勉氏(神奈川県立近代美術館館長)「彫刻をun-する(ほどく)」
- 14:00- 第1部 パネル報告
 パネル報告1 富長敦也氏(彫刻家)
 パネル報告2 北川太郎氏(彫刻家)
 ※真鶴町・石の彫刻祭について(真鶴町政策課)
- 14:40- 休憩
- 14:55- 第2部 ディスカッション
 コメント1 野城今日子氏(東京文化財研究所アソシエイトフェロー)
 コメント2 田口かおり氏(東海大学創造科学技術研究機構特任講師)
 コメント3 広瀬浩二郎氏(国立民族学博物館准教授)
 司会 篠原聰(東海大学課程資格教育センター准教授)
- 15:45- 総合討議
- 16:30 終了

水沢勉(近代美術館館長)
 富長敦也(彫刻家)
 北川太郎(彫刻家)
 野城今日子(近現代彫刻史)
 田口かおり(修復家)
 広瀬浩二郎(文化人類学)
 篠原聰(モデレーター)



問合せ先:松前記念館(東海大学歴史と未来の博物館)[篠原 ss062876@tsc.u-tokai.ac.jp]
 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 東海大学湘南校舎 Tel: 0463-58-1211(内2135)
 主催:東海大学課程資格教育センター 共催:松前記念館 後援:東海大学地域連携センター・屋外彫刻調査保存研究会・真鶴町政策課



水沢 勉(みずさわ つとむ)

1952年横浜市生まれ。1978年慶應義塾大学大学院修士課程修了。同年神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。2008年横浜トリエンナーレ2008「タイムクレヴァス」のアーティストック・ディレクター。2011年より神奈川県立近代美術館館長。現在にいたる。美術評論家連盟会員。美術史学会会員。文化資源学会会員。

富長敦也(とみなが あつや)

1961年大阪市生まれ。1986年金沢美術工芸大学大学院修了。1997～98年ポーラ美術振興財団助成を受け在外研修員としてイタリア・ピエトラサンタにて滞在、制作。2008年N.Y.で発表をした「Ninguen」が LongHouse Reserve にパーマネントコレクションされる。

北川太郎(きたがわ たろう)

1976年姫路市生まれ、石を使った彫刻を制作している。2007年～2010年 文化庁新進芸術家在外研修員(3年派遣員)として南米ペルーにて制作研究、2010年には Museo Pedro de OSMA(ペルー)で個展。帰国後「時空ピラミッド」シリーズや「静けさ」シリーズを発表している。

野城 今日子(やしろ きょうこ)

千葉県出身。東京文化財研究所文化財情報資料部アソシエイトフェロー、成城大学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程後期。専門は近現代日本彫刻史。東海大学教養学部卒業。成城大学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程前期修了。

田口かおり(たぐち かおり)

1981年東京都生まれ。保存修復士。2006年にイタリアフィレンツェの国際芸術大学絵画修復科を修了、修復工房にて絵画修復士として勤務。2014年、京都大学人間・環境学専攻博士後期課程修了(博士〈人間・環境学〉)。2016年より東海大学創造科学技術研究機構特任講師。国内外の美術館にて、作品の保存修復、展示会のコンサベーションを担当。

広瀬浩二郎(ひろせ こうじろう)

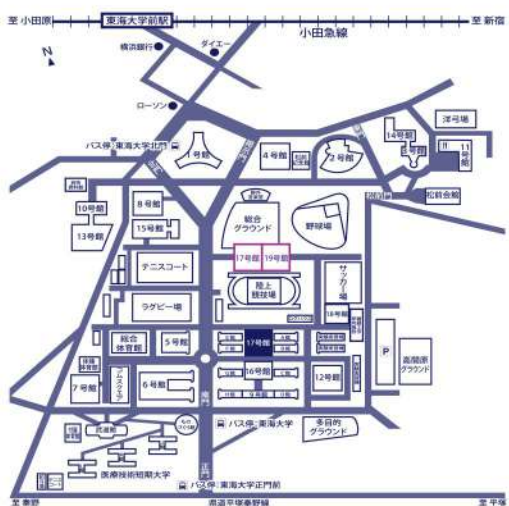
1967年東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。2001年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部准教授。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施。無視覚流鑑賞法の創始者。

写真上:富長氏の作品イメージ 写真下:北川氏の作品イメージ



東海大学課程資格教育センターでは2014年度からユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)をテーマとした公開シンポジウムを開催しています。今年度は「真鶴町・石の彫刻祭※」参加アーティストである彫刻家の富長敦也氏、北川太郎氏、モデレーターの水沢勉氏をお招きし、ユニバーサル・ミュージアム研究会の主宰者である広瀬浩二郎氏、保存修復家の田口かおり氏、近現代彫刻史の野城今日子氏を交えて、アートが拓くユニバーサルな可能性について考えます。

※「真鶴町・石の彫刻祭」は、1963年、東京オリンピックの前年に真鶴を舞台として開催された「世界近代彫刻シンポジウム」のレガシーを引き継ぐ試みです。「世界近代彫刻シンポジウム」では、国内外から集結した彫刻家12名が、真鶴で産出される銘石「小松石」を用いて彫刻に取り組み、真鶴半島でその制作風景を公開、翌年のオリンピック開催時には、制作した15点の彫刻を、新宿御苑で展示し、大きな反響を呼びました。



- 小田急線「東海大学前」駅より徒歩20分もしくはバス約5分
バス(東海大学北門下車)
- 平塚駅よりバス(東海大学行き・秦野駅行き)にて約30分
バス(東海大学正門前下車)

